



つうしん ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊
2023 年度 I 次隊
エロンゴサ小学校
吉野 葵
2024 年 8 月 第 14 号

ひらやましょうがっこうのみなさんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしている吉野です。

なつやすみ休みはどうでしたか？まだまだ暑い日が続いていると思いますが、体調管理に気をつけながら、夏休み明けの学校生活も楽しんでください。私は、夏休みが明けてまた平山小学校のみなさんに向けてナミビア通信を送ることが嬉しいです。夏休み明けからも、みなさんに楽しく読んでもらえるようなお便りを書けるよう、がんばりたいと思います。

ナミビアは日本と季節が真逆なので、6月中旬から7月中旬にかけて冬休みがありました。私はこの冬休みを利用して、ナミビアの南部にある「リュエデリッツ」という町と「コールマンスコップ」という町へ行ってきました。今回のナミビア通信では、そこで見たものや学んだことを紹介したいと思います。

リュエデリッツとコールマンスコップ

どこにあるの？どうやって行くの？

リュエデリッツは、南部の大西洋沿いにある町です。コールマンスコップはそのすぐそばにあります。



車で行くと、首都のウィントフックから約10時間かかります。朝7時にウィントフックを出て、レホボス、マリエンタル、キートマンズフープという途中の町で休憩を取りながら、夕方17時頃リュエデリッツに到着しました。今回は車を使いましたが、飛行機を使えば、首都のエロス空港からリュエデリッツ空港まで約1時間で行くことができます。

どんな場所？

ナミビアは過去にドイツによる植民地支配が行われていた歴史があります。リュエデリッツは、そのドイツ支配が始まった町です。そのため、町を歩いているとドイツ風の建物をよく見かけます。コールマンスコップは昔ダイヤモンドの発掘で栄えていた町で、現在は人が住んでいないゴーストタウンとして、人気観光地の1つです。



リューデリッツの歴史

現在のリューデリッツが位置する湾の発見

1487年、バルトロメウ・ディアスというポルトガル人の探検家がアフリカの南を回航した際に、この湾を発見し、「アングラ・ペケナ（ポルトガル語で小さな湾）」という名前を付けました。現在ここは「ディアスポイント」と呼ばれ、石の十字架（当時建てられた十字架のレプリカ）が建てられています。



↑十字架のレプリカ

ドイツによる植民地支配の始まり

アドルフ・リューデリッツというドイツの商人の代理人が、1883年に南西アフリカ（現在のナミビア）の南部に土地を購入し、ドイツの保護下に置きました。この土地が現在のリューデリッツです。1886年、リューデリッツはオレンジ川（現在のナミビアと南アフリカの国境にある川）へ遠征に行った際に亡くなり、彼に敬意を表してこの土地が「リューデリッツ」と名付けられました。このリューデリッツ設立後、リューデリッツよりも北にドイツ領の港町スワコップメントが設立されるなど、ドイツ支配が南西アフリカ（現在のナミビア）で広がっていきました。



↑アドルフ・リューデリッツ
[Adolf Lüderitz - Wikipedia](#)

シャークアイランド

リューデリッツにある「シャークアイランド」と呼ばれる場所には、1905年にドイツ軍によって強制収容所が設立されました。現在その収容所は残っておらず、この土地はキャンプ場になっていて、亡くなった方を追悼するための記念碑だけが建てられています。この収容所が建てられた当時、先住民族のナマ族やオバヘレロ族と、ドイツ軍の間で、ヘレロ戦争が起こっていました。最終的にドイツ軍がこの戦いに勝利し、生き残ったナマ族やオバヘレロ族はこの強制収容所に入れられて、そのほとんどがここで亡くなりました。



↑記念碑

コールマンスコップの歴史

1908年、ドイツ領であったこの土地で豊富なダイヤモンドが発見されました。このダイヤモンドの富により、ドイツ風の家、病院、製氷工場、ボーリング場、発電所などが建てられ、ドイツの鉱山労働者たちが住む小さいながらも栄えた町になりました。ここが現在のコールマンスコップです。しかし、1928年にオレンジ川（現在のナミビアと南アフリカの国境にある川）周辺で、さらに大きなダイヤモンド鉱山が発見され、コールマンスコップに住む住民たちは家を残したまま急いでこのオレンジ川周辺へ移住しました。その結果、町から人がいなくなり、残された建物が砂に包み込まれ、現在のようなゴーストタウンとなりました。



↑住民がいなくなった家



↑砂まみれになった家の中